

1. 単元名 「100より大きい数をしらべよう」**2. 単元について**

第1学年では2位数(100まで)の数について、それぞれの言い方、数の読み方、書き方、及び数の大小、順序、系列について、少しずつ数範囲を拡張しながら学習してきた。

第2学年では、10000までの数を学習することになるが、第1学年における既習をもとに、本単元では、3位数(1000まで)へ数を拡張することになる。ここでは、3位数の十進位取り記数法による読み方、表し方、書き方及び大小、順序などを理解させることがねらいである。

数え方として、10ずつ、100ずつのまとまりをつくって数える活動は、数の構成、進んでは十進法の理解に役立つ重要なもので、数の大小関係の方法や数の順序、系列などの理解にも通ずるものである。したがって、いろいろな具体物を用いて、子ども達が数を数える経験を積むようにしていく。

また、10や100をもとにした簡単な加法、減法計算も指導することになる。これは、3位数まで(1000まで)の数についての理解を深めることに重点を置いたものである。表面的には計算であるが、この計算を通して数の大きさを多面的にとらえることができることをねらいとしている。したがって、形式的な取り扱いに陥らないように留意していく。

3. 研究の視点に関わって**(1) 視点1 基礎・基本を明確に位置づけ、効果的な指導を進めるための指導計画の工夫について**

本単元の基礎・基本は、3位数(1000まで)の数を10や100のまとまりによりとらえ、十進位取りの考え方を確実にすること。十進位取りによって、3位数(1000まで)の数をあらわすこと(記数法、命数法)を確実にすること。そのために、以下の6点をおさえていくことが大切であると考えて指導計画を立てた。

- ① 個数の大きさをとらえるのに、全体の個数を10個ずつのまとまりにし、10個ずつのまとまりが10できたときは、さらにそれを10ずつまとめて100個のまとまりにするという操作を通して、数の十進構造を理解すること。
- ② 全体の個数を言い表す場合は、十、百のまとまりを単位として、100のまとまりが2こなら二百など、単位の大きさと、その単位の個数を組み合わせて表せばよいという命数法を理解すること。
- ③ 個数の大きさを数字で表すとき、100のまとまりは百の位に表し、10のまとまりは十の位に表し、半端の数は一の位に表すという記数法を理解すること。
- ④ 数の大小、順序、系列が分かり、数直線上に表すことができること。
- ⑤ 数を、1がいくつ集まったとみるだけではなく、10や100を単位として、それらがいくつ集まった数かともみられるようにすること。
- ⑥ 「 $50+70$ 」を「10が、5こ7こで12こあるから、120」と考えて計算するように、加法や減法の計算を通して、数の大きさを多面的にとらえることができること。

学習を展開していく中では効果的な指導を進めるために、

- Ⓐ 「体験的な活動を豊富に盛り込み、算数的な良さに気づく」学習場面
- Ⓑ 「習熟を図る」学習場面

のバランスを大切にしたい指導計画を構築した。

Ⓐのような学習場面として、何百匹の動物が描かれている絵、ミニ積み木・数え棒など、具体物や半具体物を数える活動に取り組み、子ども達が「100のまとまり」で数える良さに気づき、実感できるようにした。

また、Ⓑのような学習場面として、数値や数える対象を変えるなど、変化のある繰り返し指導を展開し、既習事項を生かしながら解決できるようにした。

このように、「体験的な活動を豊富に盛り込み、算数的な良さに気づく」学習場面と、「習熟を図る」学習場面のバランスを大切にしたい指導計画の工夫を図ることによって、これまでの学習を生かし、数え方、読み方、書き方、数の構成など、実感を伴いながら理解を図っていかれると考えた。

(2) 視点2 基礎・基本を重視し、意欲的な学びを促す問題解決の場面設定や指導方法等の工夫について

本時は単元の導入場面である。また、この単元の基礎・基本となる100以上の数の数え方や読み方、「1が10あつまって10のまとまり、10のまとまりが10あつまって、100のまとまり。」という、10を単位とした数の構造(十進構造)に気づいていく大変重要な学習の時間である。具体物を用いて操作活動を取り入れ、子どもたちの気づきを大切にしながら、問題解決を促していきたい。

ばらの具体物や半具体物を数えるとき、1つずつ数詞を数えながら数えるよりは、2つずつ、5ずつ、さらには10ずつ、100ずつのまとまりをつくって数える方が、速く、かつ正確に数えられることは子どもにも理解できると考える。

しかし、ここで大切なのは、まとまりをつくって数えることが、単に速く正確に数えるための活動ではないことを明確におさえておかなければならない。ばらを10のまとまりにし、10のまとまりから100のまとまりをつくるという活動は、命数法から記数法へもっていくための重要な操作活動である。

数える数が大きくなるにつれて数える活動の困難度が高くなっていくので、本単元では十分な活動時間を保障したい。

学級の実態として、グループ学習に取り組むと、発言力のある子の意見や考え方に他の子が同調し、子どもが自ら考えることを止めてしまったり、個人の意見や考え方がグループの中で埋没してしまうことがある。そうならないよう、まず自分で考え、その上で友達のことを聞き、「はやく、かんたんに、せいかくに」の博士の法則に沿ってよりよい考え方を見つけていくよう指導中である。

そのため「グループ対抗おはじき取りゲーム」など、グループ主体の活動に取り組むよりも、一人ひとりが同じ個数のものを数える活動の方が、より一人ひとりの活動を保障し、基礎・基本の定着が図られると考えた。意欲的な学びを促すため、「ミニ積み木取りゲームをしよう。」というゲーム的な要素を持たせた学習問題を設定する。子どもたちがミニ積み木を数えたいと思うような学習問題である。本時ではミニ積み木について、パッと見て、何個かわかる数え方を個人で考えた上で全体で数を確認し、数え方や読み方を押さえる。その上で、次時、数え棒の数を数える活動を通して定着を図っていく。

(3) 視点3 一人ひとりの学びを共感的にとらえ、観点や場面・方法を明らかにした指導改善に生かす評価の工夫について

評価については、「わからなかった」「できなかった」というふうには、結果を否定的にとらえるのではなく、自力解決の過程で「ここまでわかった」「ここまでできた。」というように、子どもたちの活動を肯定的にとらえていきたい。その上で、個に応じた指導を行っていく。一人ひとりの子どもたちが今までに学習したことをもとに考えたり、様々な操作活動を試みている姿を教師が共感的にとらえることによって、子どもたちの学びの意欲が高まっていくと考える。

また、1単位時間で4領域全てを評価するのではなく、毎時間ごとの目標と照らし合わせて評価領域の重点化を図っていく。どの場面で、どのような方法で見取るかという事前の計画を立てる。学級の実態として学力差が大きいので、低位の子に対し「10より大きい数」「20より大きい数」などの1年生の学習内容を想起できるような言葉かけや、自力解決の進まない子への具体物・半具体物の準備や操作活動のヒントとなる言葉かけ、前時までの学習内容の想起ができる言葉かけや教室環境の設営など、評価規準に到達していない子どもへの支援をあらかじめ考慮しておく。このような工夫をすることで、実効ある評価や見取りを行い、指導改善に生かしていきたい。

4. 本単元の目標

- 1000までの数についてその表し方を理解し、数の概念について理解を深めるとともに、数を用いる能力を高める。

5. 本単元の評価規準

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
数の数え方や表し方について関心を持つとともに、十進位取り記数法の良さに気づき、日常生活の中で活用しようとする。	十進位取り記数法のしくみをもとに、数の表し方について考える。	1000までの数について数えたり書き表したりすることができる。	1000までの数について、数の読み方や書き表し方、数の構成、系列、順序、大小を理解する。

6. 学習指導計画(本時 1/9時間)

時	学習内容	評価規準 ○支援・留意点
1 本時	<p>ミニ積み木取りゲームをしよう。</p> <p>ゲームのルール</p> <ol style="list-style-type: none"> ① さいしよに、全員が同じ数ずつ積み木をもらいます。 ② 隣の人とじゃんけんをして、勝った人は負けた人から積み木をもらいます。 ③ グーで勝ったら、1こ チョキで勝ったら、2こ パーで勝ったら、5こ もらいます。 ④ 一番多く積み木を持っていた人の勝ちです。 <p>さあ、実際にやってみよう。</p> <p>ミニ積み木が何個あるか数えていこう。今、ぐちゃぐちゃに置いているけど、見ただけで何個って分かるかな。</p> <p>・分かんない。 ・見にくい。 ・見やすすくない。</p> <p>かだい 何こあるか、かんたんに分かるような、数えかたをかながえよう。</p>	<p>○支援・留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・235個のミニ積み木のに入った袋を提示する。 ○ゲームの内容をわかりやすく説明し、見通しと意欲をもつようにする。 ・積み木の扱いについて、どうすればよいか押さえる

1 ずつ作せん
1 こずつ数えていると答えは
分かったけど、パッと見ても
何個か分かんないな。

10 のまとまり作せん
10 のまとまりをつくっていくと
答えが出たし、見やすいぞ。

20 のまとまり作せん
20 のまとまりを作ると、
答えが出たし、見やすいぞ。

50 のまとまり作せん
50 のまとまりを作ると、
答えが出たし、見やすいぞ。

100 のまとまり作せん
100 のまとまりを作ると、
何百何十何っていう
答えが見やすいぞ

【全体交流】

- ・ 1 個ずつ数えてもできるけど、もっと早く数えるやりかたもある
- ・ 10 個ずつ、20 個ずつ、50 個ずつでもいいよ。
- ・ どの数え方でも、答えは同じだね。
- ・ 100 のまとまりだと、何百何十何個あるか分かりやすいね。

まとめ
10 のまとまりを10 まとめて、100 のまとまりをつくと、
数えやすそうだ。

2

グループ対抗数え棒取りゲームをしよう。

ゲームのルール

- ① 目をつぶって袋から両手で数え棒を取ります。
- ② 他の班より人数の少ない班は、代表の人がもう一度数え棒を取ります。
- ③ 一番多く数え棒を取ったグループの勝ちです。

さあ、実際にやってみよう。

他のグループの人が見ても何本だって分からないとだめだよな。

パッと見て、何本か分かるならべかたをかんがえよう。

一気に100 本数えようと思ったら、途中で分からなくなっちゃった。
まず、10 本ずつまとめよう。 20 本ずつまとめてもいいね。
30 本ずつでもいいね。 たばを集めて50 本にしてもいいね。
いくつかまとめたものを集めて、100 本にしよう。

【全体交流】

- ・ 1 本ずつ数えてもできるけど、もっと早く数えるやりかたもある
- ・ 一気に100 本集めようとしたら、分からなくなっちゃった。
- ・ 10 本ずつ、20 本ずつ、50 本ずつまとめると早そう。
- ・ でも、20 のたばと30 のたばと50 のたばとか、いっぱいあると、どのたばが何本かパッと見たって分からないよ。
- ・ やっぱり、100 のまとまりと10 のまとまりとばらにするほうが見やすいね。

まとめ
100 のまとまりと、10 のまとまりと、1 がいくつと考えると、
何百何十何と、分かりやすそうだ。

二百三十五って、数字でどう書くのかな。

- 1 が5 こは、一の位に「5」と書く。
 - 10 が3 こは、十の位に「3」と書く。
 - 100 が2 こは、きっと十の位の左側に「2」と書けばいいんじゃないかな。
- 一の位、十の位の左側は、きっと百の位じゃないのかな。

考：10 のまとまりや、100 のまとまりにするなど、自分なりに工夫して数えようとしている。

【観察・対話】

○1 年生の時の大きな数の学習を思い出して、まとまりをつくれば数えやすかったことを想起するようにする。

○ただ数えるのではなく、あとで他の人が見ても、何ことわかるようになるようにする。

○数えた結果よりも、数え方の工夫とまとまりの工夫にしぼって、考えられるようにする。

○ゲームの内容をわかりやすく説明し、見通しと意欲をもつようにする。

表：10 のまとまりや100 のまとまりにして、くふうして数えている。

【観察・対話】

○前時に行ったミニ積み木を数えたときのことをもとに、10 や100 のまとまりをつくればいいことに気づくようにする。

○数えた結果よりも、数え方の工夫とまとまりの工夫にしぼって、考えられるようにする。

考：3 位数の書き方を考えている。

【ノート】

指導事項

100のくらい 10のくらい 1のくらい
2 3 5

100が2つで、
200。
10が3つで30。
1が5つで5。
200
30
5
↓
235

十の位は一の位の左側だったことから、百の位は十の位よりも左側に書けばよいことに気づくようにする。

では、百十七って数字でどうやって書くのかな。

100のくらい 10のくらい 1のくらい
1 1 7

100が1つで、
100。
10が1つで
10。
1が7つで7。
だから、読み方は百十七。書き方は117。

知: 10のまとまりや100のまとまりにして、くふうして数えている。

【ノート】
○100が4つで何百か、20が2つで何十か、1が3つで何かを聞き、百十七、四百二十三だということを押さえて、指導事項を確認する。

読み方と書き方をれんしゅうしよう。

100のくらい 10のくらい 1のくらい
4 2 3

100が4つで、
400。
10が2つで
20。
1が3つで3。
だから、読み方は四百二十三。書き方は423。

3

もんだい
ストローは、ぜんぶで、何本あるでしょうか。

百が二つと、一が六つで、二百六本だ。
二百と、六で、二百六本だ。

・ストローの図を提示する。

○10のまとまりは何個かを問い、10のまとまりが0だとおさえて、ストローは何本かを確認する。

かだい
二百六の、数字の書き方を考えよう。

100が2こ、10が無い、1が6こで、26。
100が2こ、あと6だから、2006。
100が2こ、10が0こ、1が6こで、206。
位取り板で考えてみたら、206だ。

考: 空位のある3位数の表し方を考えている。

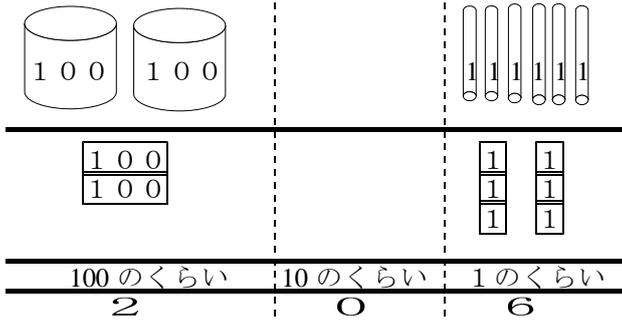
【ノート】
○前時の3位数の書き方の学習をもとに、考えるよう促す。

100のくらい 10のくらい 1のくらい
2 0 6

【全体交流】
26かな。でも、「二十六」と同じだな。
2006かな。でも、「二十六」は「206」と書かないな。
206だと思う。十のまとまりはないので、十の位に0と

○既習である26の記数法と対比して、正しい書き方に気づくようにする。

書けばいいよ。
位取り板で考えてみればいいよ。



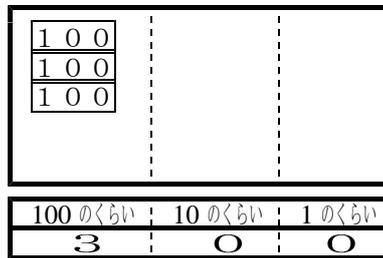
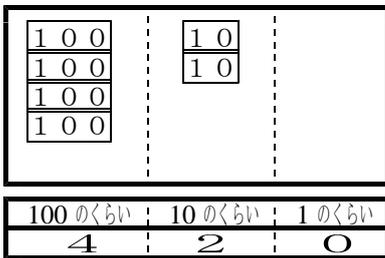
○十の位の空位を表す0の意味を押さえるとともに、位取り板を通して理解を深める。

まとめ

10のまとまりがないときは、10のまとまりが0と考えて、十のくらいに0を書けばいい。

4

次の数カードの数を、数字で書きましょう。

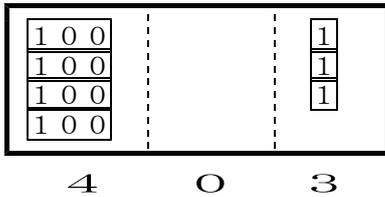


表：空位のある3位数を、読んだり書いたりしている。

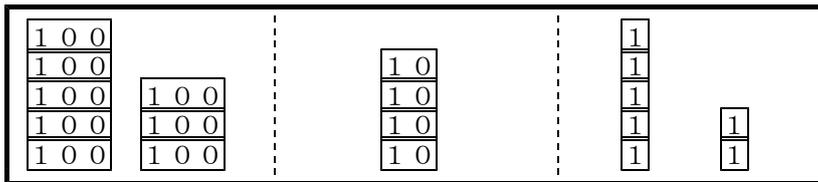
【発言・ノート】

○「1が0こ」「10が0こ」というように、空位を0と表現してから、数字で書くようにする。

403を、数カードでならべよう。



この数カードが表す数は、いくつでしょう。



八百四十七です。

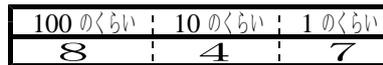
100が8こ、10が4こ、1が7こで、八百四十七です。

100が8こで800、10が4こで40、1が7こで7だから、八百四十七です。

この数を、数字で書きましょう。

847だ。

自信がないから、位取り板を使おう。



847は、100を何こ、10を何こ、1を何こあわせた数ですか。

847は、百の位の数が8、十の位の数字が4、一の位の数字が7だから、100を8こ、10を4こ、1を7こあわせた数です。

そのことを、しきで表しましょう。

$$800 + 40 + 7 = 847$$

$$847 = 800 + 40 + 7$$

・数カードから数、数から数カードの双方向で考えることを通して、記数法についての理解を深める。

・数カードの提示。

表：数の構成を考えながら、3位数を読んだり書いたりしている。

【発言・ノート】

○前時の学習内容を想起するようにし、百がいくつ、十がいくつ、一がいくつなのかを押さえるようにする。

○合成的表現だけではなく、分解的表現を取り入れることによって、多様な表現に慣れるようにし、児童が自分の言葉として用いることができるようにする。

一気に100枚数えようと思ったら、途中で分からなくなっちゃった。
 まず、10まいずつまとめて、10円のまとまりしよう。
 10円のまとまりを10あつめて、100円にしよう。
 100円のまとまりが10あつまった。1000円だ。
 先生はびんぼうだね。ぼくはもっとお金を持っているよ。

【全体交流】

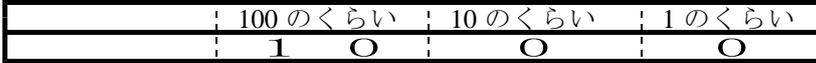
- ・数えるのに時間がかかった。すごくいっぱいあった。
- ・一気に100枚ずつ集めようとしたら、分からなくなっちゃった。
- ・10枚ずつまとめるて100円にするといいね。
- ・100円のまとまりが、10あるから、1000円だ。
- ・1円玉がこんなにたくさんあるのに、1000円なんだね。
- ・1000円さつ1まい分だよ。

まとめ

大きな数を数えるときには、10や100のまとまりをつくってその数を数えたらよい。

千は、数字でどう書くのかな。

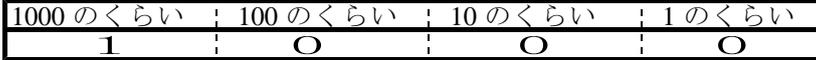
100のまとまりが10だから、これでいい。



でも、1つのくらいには、9までしか入らなかった。
 10が10あつまったとき、左に100のくらいをつくったよ。
 左に、あたらしい位をつくって1を書けばいいんだ。
 1000と書けばいいんだ。

指導事項

100を10あつめた数を、「千」といい、1000と書きます。



1000は、何を、何個集めた数かな。



1を1000こ。 100を10こ。 10を100こ。

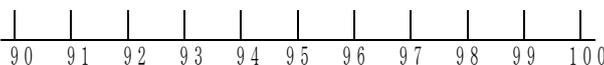
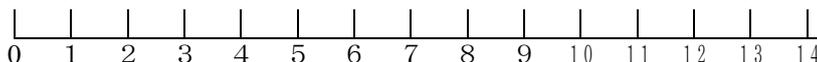
れんしゅうしよう。

- 1000は、900より□大きい数。
- 1000は、800より□大きい数。
- 1000は、990より□大きい数。
- 1000は、980より□大きい数。
- 1000は、999より□大きい数。
- 1000は、998より□大きい数。

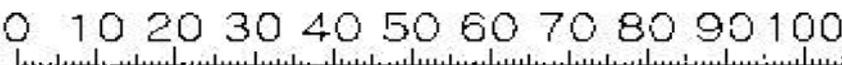
7

数の線のことを、思いだそう。

1めもりごとに、数が書いてある数の線だ。



10めもりごとに、数が書いてある数の線だ。
 ちょっとむずかしい数の線だ。
 1めもりがいくつか、考えなければできないね。



まとまりを使って数える良さに気づき、用いようとしている。【観察・発言】

○既習事項を想起できるようにする。

・4位数以上の大きな数になると、具体的に数えたり、操作したりする機会が少なくなる。実際に数える活動を通して、「千」の大きさを、量感をともなうてとらえられるようにする。

○左の位取り板を提示し、既習の位取りの原理と記数法から類推して考えられるようにする。

・理解を深めるため、「・」が千個ならんでいるドット図を提示する。

知：10や100のまとまりに着目して、1000の大きさをとらえている。

【ノート】

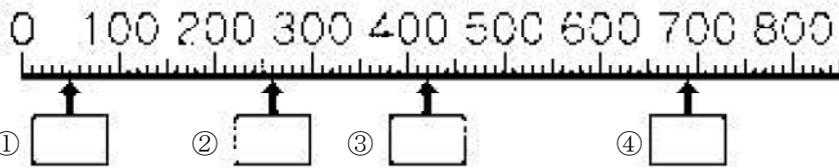
○1000枚の1円玉やドット図で考えるようにする。

・数直線を提示

○1年生の「数の線」の学習の想起を促し、1めもりがいくつなのかを考えて、数を順序よく読み取ることができるようにする。

・数直線を提示

もんだい
つぎの数の線にある、□にあてはまる数を考えよう。



かだい
数の線の読み方を考えよう。

むずかしいな。
1めもりがいくつか分からなきゃできないんだっとな。
1、2、3、4、5、6、7、8、9、100。おかしい。
10、20、30、40、50、60、70、80、90、100だ。
1めもりが10だ。

1めもりが10ということに目をつけて、10がいくつか考えた。
①は10が5こで、50。 ②は10が26こで、260。
③は10が42こで、420。 ④は10が69こで、690。

何百といくつに目を向けると
②は、200と60で、260。 ③は、400と20で、420。
④は、600と90で、690。

近くのめもりに目をむけると
②は、200より60大きい。200と60で、260。
②は、200より60大きい。10ずつ数えながら大きくして行って
210、220、230、240、250、260。
②は、300より40小さい。10ずつ数えながら小さくして行って
290、280、270、260。

③は、400より20大きい。400と20で、420。
③は、400より20大きい。10ずつ数えながら大きくして行って
410、420。

④は、600より90大きい。600と90で、690。
④は、600より90大きい。10ずつ数えながら大きくして行って
610、620、630、640、650、660、670、
680、690。

④は、700より10小さい。10ずつ数えながら小さくして行って
690。

【全体交流】
・まず、1めもりがいくつなのか考えないと分からないよ。
・1めもりが10ということに目をつけて、10がいくつか考えたら分かったよ。
・□は何百と何十なのか考えたら分かったよ。
・近くのめもりに注目して、そこから10ずつ数えていくと分かったよ。

まとめ
数の線に書いてある数字をヒントにして、1めもりの大きさを考えれば、数の線が読めそうだ。

この数の線の、550のところに、↑を書きましょう。
どのように考えたのかも発表しましょう。

550は、10が55こ。0から数えて55めもりのところです。
550は、500と50。500から5めもり右にいったところです。
550は、600より50小さい。600から5めもり左にいった
ところです。

上の数の線と、下の数の線。どこがちがいますか。

考：2位数の数系列をもとに、3位数の数系列を考えている。

【ワークシート・
・発言・対話】

○1めもりの大きさに目をむけて、1めもりが10だと確認して、数直線のめもりを読むように促す。

○300より40小さい、700より10小さいという見方はできても、数を表せない児童には、数を300、290、280、270など数を逆に唱えたり、書いたりすることで理解を促す。

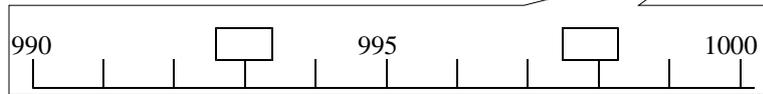
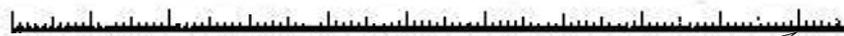
○1めもりの大きさに目をむけて、1めもりが10だと確認した上で、出された考え方の通りに数直線のめもりを読むようにして、理解を促す。

表：数直線上に数を表している。

【ワークシート
・発言・対話】

○前の学習活動と関連づけて、考えるようにする。

0 100 200 300 400 500 600 700 800 900 1000



上の数の線は1めもりが10だけど、下の数の線は1めもりが1だ。990から1000までを、大きくしたようだ。

□の中に入る数は、いくつですか。

左の□は、990より3大きいから、993。

右の□は、995より3大きいから、998。

右の□は、1000より2小さいから、998。

もんだい

ミニ運動会をしました。

白組は758てん。青組は762てん。紅組は699てんでした。

1いは何組、2いは何組、3いは何組でしょうか。

かだい

数の大きさをくらべるには、どうすればいいか考えよう。

大きな位の数からくらべる。

100の位は白組と青組は7。紅組は6だから、あか組が3い。

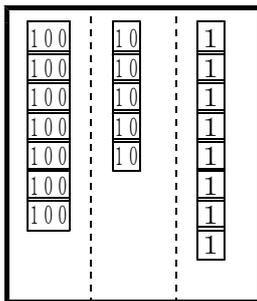
10の位は白組が5で青組が6だから、青組が1いで白組が2い。

数カードと位取り板で考える。

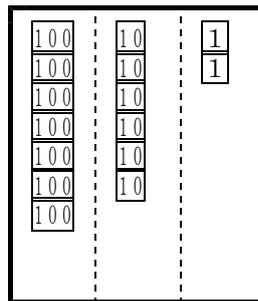
① 758

② 762

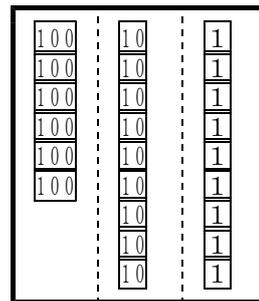
③ 699



1000の くらい	10の くらい	1の くらい
7	5	8



1000の くらい	10の くらい	1の くらい
7	6	2



1000の くらい	10の くらい	1の くらい
6	9	9

【全体交流】

白組と青組は100のまとまりが7つあるけれど、あか組は6つしかないね。あか組は3いだね。

100の位の数でくらべても、白組と青組は7で、あか組は6つだよ。

白組と青組は、100の位は同じだから、10の位でくらべると5と6。青組の方が大きい。

まとめ

数の大きさをくらべるには、大きいくらいからじゅんに、同じくらいの数どうしをくらべれば、どちらが大きいかわかる。

れんしゅうしよう。

307と299、大きい数は□です。

698と696、大きい数は□です。

もんだい

ずこうのじかんに、おりがみで千ばづるををります。

〇〇くんは、さいしょに50まいおりがみをよういしました。

次の日に、70まいおりがみをよういしました。

〇〇くんがよういしたおりがみは、ぜんぶで何まいですか。

○2つの数直線をくらべることのより、1めもりの大きさに着目して考えられるようにする。

知：1000までの数の系列、順序について理解している。

【ノート】

○既習事項の想起を促す。

・順位を決めるためには、数の大小が分からなければならないことをおさえる。

考：数の大小を判断するために、大きい位から順に、同じ位どうしの数どうしの大小を比較している。

【ノート・観察

・対話】

○2位数の場合の数の大小の比較方法を例示して、位取り板をもとに考えるようにする。

○どんな順番で、何の位に着目して比べたのか、分かるように発表できるようにする。

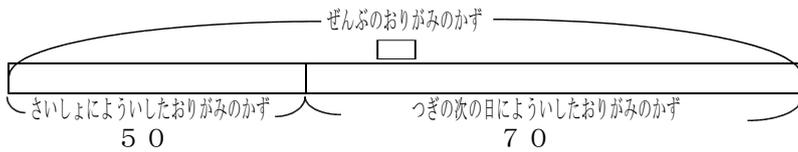
表：1000までの数について、位の数に着目して大小を判断している。

【ノート】

○既習事項の想起を促す。

8

9

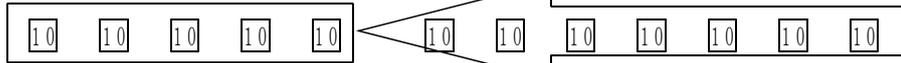


たしざんのもんだいだ。

$$\begin{array}{r} \text{さいしょにしよういたおりがみのかず} \\ 50 \\ + \\ \text{つぎの次の日しよういたおりがみのかず} \\ 70 \\ \hline \end{array} = \text{ぜんぶのおりがみのかず}$$

かだい
何十たす何十の、けいさんのしかたをかながえよう。

図で表して、10ずつかぞえる。でも、けいさんじゃないな。



10、20、30、…と110、120とかぞえて、120
10のたばが、1、2、3、…、12、とかぞえて、120
10が5つと7つだから、 $5 + 7 = 12$ 10が12で120

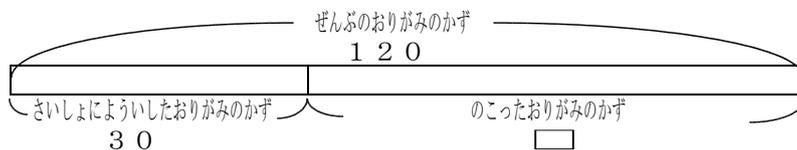
【全体交流】

ぜんぶ、10のまとまりでかながえている。
10が5つと7つだから、 $5 + 7 = 12$ 10が12で120
というのは、 $5 + 7$ のかんたんな計算をしていて、数えなくてすむ。
絵とか図とか、かかなくても、かんたんに計算している。

まとめ
10のまとまりがいくつといくつでかながえて、けいさんすればよさそうだ。

つぎのもんだいも、同じ考えかたで、できるかな。

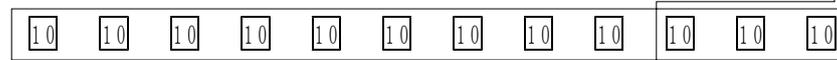
ずこうのじかんに、おりがみで千ばづるをおります。
〇〇くんは、120まいおりがみをよういしました。
30まい、おりがみをつかって千ばづるをおりました。
のこったおりがみは、なんまいですか。



ひきざんのもんだいだ。

$$\begin{array}{r} \text{よういたおりがみのかず} \\ 120 \\ - \\ \text{つかったおりがみのかず} \\ 30 \\ \hline \end{array} = \text{のこったおりがみのかず}$$

図で表して、10ずつかぞえる。でも、けいさんじゃないな。



10のまとまりが、 $12 - 3 = 9$ だから、90まい。
10のまとまりでかながえて、ひきざんすれば、かんたん。
たしざんのとときと、同じ考え方でできるね。

れんしゅうしよう。

$$\begin{array}{cccc} 30 + 80 & 70 + 60 & 90 + 50 & 40 + 80 \\ 110 - 40 & 150 - 90 & 130 - 50 & 170 - 80 \end{array}$$

・問題文をもとにテープ図を作成し、足し算の適用場面であることを押さえるようにする。

・言葉の式、数字の式を立てる。

考：何十たす何十のような加法計算を、10を単位として、1位数の計算に帰着して考えている。
【ノート・対話】

○「数える」ことと「計算する」ことの違いをめいかくにし、10のまとまりがいくつといくつか捉えるようにする。

・問題文をもとにテープ図を作成し、引き算の適用場面であることを押さえるようにする。

・言葉の式、数字の式を立てる。

考：何十ひく何十のような減法計算を、10を単位として、2位数や1位数の計算に帰着して考えている。
【ノート・対話】

○足し算の時の考え方を例示する。

表：何十たす何十やの何十ひく何十の計算をしている。
【ノート】

7. 本時の主張

持ち上がって担任2年目の学級である。2年生の時は、答えをわかっているでも挙手したり、みんなの前で発表するのをためらう子が多かったものの、徐々に挙手や発表することに積極的になってきている。話の聞き方の指導を重ねているものの、「話をしている人の方を見ながら聞く。」「何もさわらずに聞く。」ことなど、まだまだ改善すべき課題が多い。また、特別支援が必要な児童もいて、配慮が必要である。

本時は、「100より大きい数」を取り扱う。「全部あっていたら100てんと書きなさい。」という指示が通っている実態である。1年生の生活科の学習では、自分たちが育てたあさがおの種を数えたときに

100以上の種がとれた子がいて、その子は100以上の種の数を数えていた。長さの学習の際には、マス目をもとにして長さを表そうとして100以上のマス目の数を数えている子もいた。また、金銭など100より大きい数に接しており、100より数の多いものがあることは多くの子がすでに認識していると思われる。反面、数を数えるのに時間がかかる子もいる。

本単元では、十進位取り記数法の理解をもとに、1000までの数について、よんだり、書いたりできるようにすることが重要である。本時はこの単元の基礎・基本となる「10のまとまりが10で100のまとまりをつくれればよい。」という考え方に気づいていく大変重要な学習の時間である。具体物を用いて操作活動を取り入れ、数を数える上での子ども達の工夫しているところを認めながら、最終的に「100のまとまりをつくれればよい。」ことに気づくようにしていきたい。

8. 本時の目標

○1000未満の数について、「100のまとまり」を作って数える良さに気づく。

9. 本時の展開(本時 1/9時間)

学習内容	評価規準 ○支援・留意点						
<p style="text-align: center;">ミニ積み木取りゲームをしよう。</p> <p>ゲームのルール</p> <ol style="list-style-type: none"> ① さいしょに、全員が同じ数ずつ積み木をもらいます。 ② 隣の人とじゃんけんをして、勝った人は負けた人から積み木をもらいます。 ③ ゲームで勝ったら、1こ チョコで勝ったら、2こ パーで勝ったら、5こ もらいます。 ④ 一番多く積み木を持っていた人の勝ちです。 <p style="text-align: center;">さあ、実際にやってみよう。</p> <p style="text-align: center;">ミニ積み木が何個あるか数えていこう。今、ぐちゃぐちゃに置いているけど、見ただけで何個って分かるかな。</p> <p style="text-align: center;">・分かんない。 ・見にくい。 ・見やすすくない。</p> <p style="text-align: center;">^{かだい}何こあるか、かんたんに分かるような、数えかたをかんがえよう。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1つずつ作せん 1こずつ数えていると答えは分かったけど、パッと見ても何個か分かんないな。</td> <td style="width: 50%; border: none;">10のまとまり作せん 10のまとまりをつくっていくと答えが出たし、見やすいぞ。</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">20のまとまり作せん 20のまとまりを作ると、答えが出たし、見やすいぞ。</td> <td style="border: none;">50のまとまり作せん 50のまとまりを作ると、答えが出たし、見やすいぞ。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border: none; text-align: center;">100のまとまり作せん 100のまとまりを作ると、何百何十何っていう答えが見やすいぞ</td> </tr> </table> <p>【全体交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1個ずつ数えてもできるけど、もっと早く数えるやりかたもある ・10個ずつ、20個ずつ、50個ずつでもいいよ。 ・どの数え方でも、答えは同じだね。 ・100のまとまりだと、何百何十何個あるか分かりやすいね。 <p style="text-align: center;">^{まとめ}10のまとまりを10まとめて、100のまとまりをつくらと、数えやすそうだ。</p> <p style="text-align: center;">次の時間は、数え棒の数を数えるぞ。</p>	1つずつ作せん 1こずつ数えていると答えは分かったけど、パッと見ても何個か分かんないな。	10のまとまり作せん 10のまとまりをつくっていくと答えが出たし、見やすいぞ。	20のまとまり作せん 20のまとまりを作ると、答えが出たし、見やすいぞ。	50のまとまり作せん 50のまとまりを作ると、答えが出たし、見やすいぞ。	100のまとまり作せん 100のまとまりを作ると、何百何十何っていう答えが見やすいぞ		<p>・235個のミニ積み木の入った袋を提示する。</p> <p>○ゲームの内容をわかりやすく説明し、見通しと意欲をもつようにする。</p> <p>・積み木の扱いについて、どうすればよいか押さえる</p> <p>考：10のまとまりや、100のまとまりにするなど、自分なりに工夫して数えようとしている。</p> <p>【観察・対話】</p> <p>○1年生の時の大きな数の学習を思い出して、まとまりをつくれれば数えやすかったことを想起するようにする。</p> <p>○ただ数えるのではなく、あとで他の人が見ても、何ことわかるようになるようにする。</p> <p>○数えた結果よりも、数え方の工夫とまとまりの工夫にしばらく、考えられるようにする。</p> <p>・次時予告</p>
1つずつ作せん 1こずつ数えていると答えは分かったけど、パッと見ても何個か分かんないな。	10のまとまり作せん 10のまとまりをつくっていくと答えが出たし、見やすいぞ。						
20のまとまり作せん 20のまとまりを作ると、答えが出たし、見やすいぞ。	50のまとまり作せん 50のまとまりを作ると、答えが出たし、見やすいぞ。						
100のまとまり作せん 100のまとまりを作ると、何百何十何っていう答えが見やすいぞ							